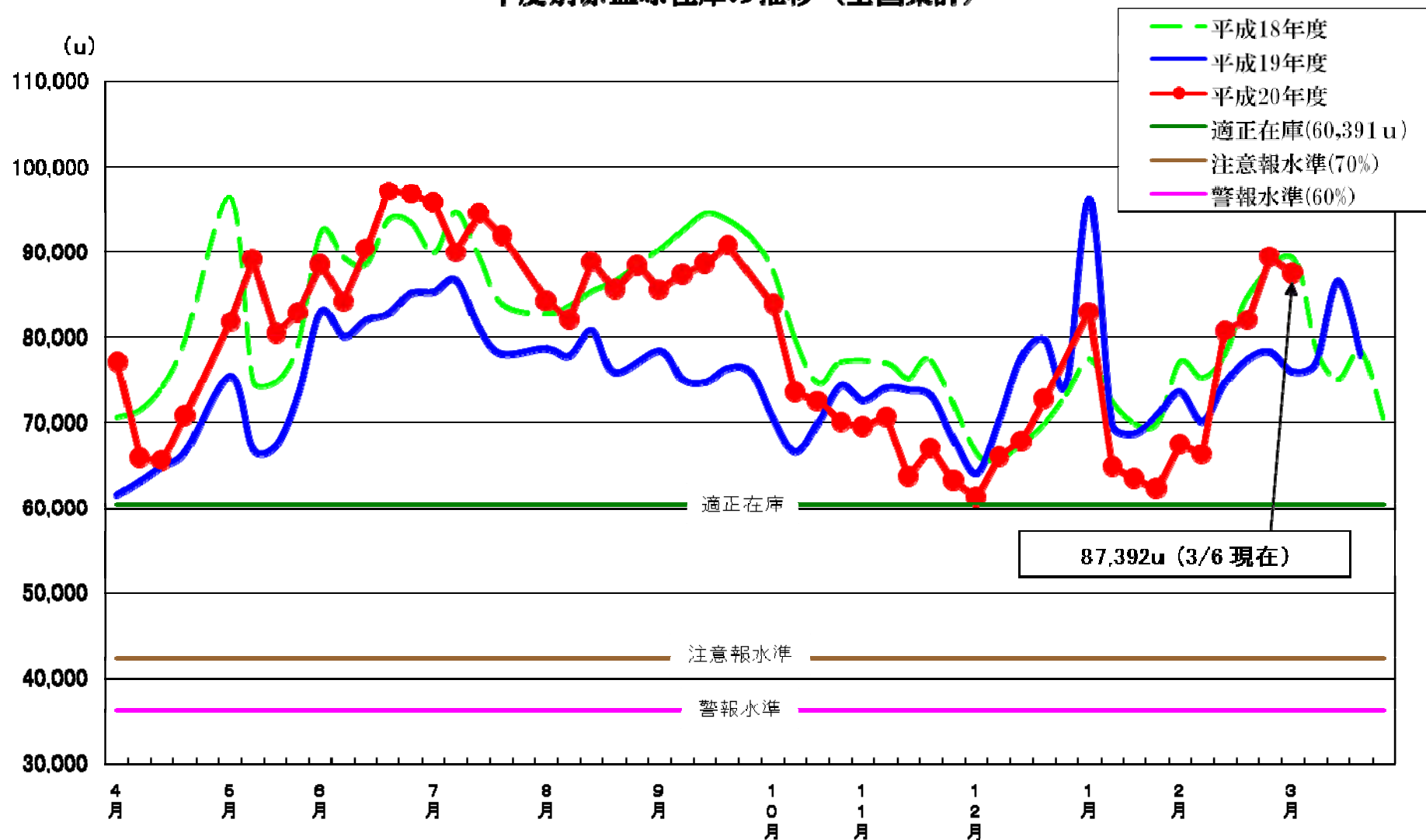


年度別赤血球在庫の推移 (全国集計)



平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

北海道赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ティーンズドナー献血キャンペーン	全道の中中学生から20代の若年層	協力者数 2,500名以上
2	サタデー・テーリング	小学生、特に高学年に献血の重要性を啓蒙する	期間 4月～9月まで 参加者2,500名以上
3	サマー献血キャンペーン	10～20代を中心とした若者	全道、5ヶ所で実施 800名以上
4	施設見学や総合的な学習等の受入	学生(小・中・高・短大・大学) 幅広く啓発を図る	参加者 600名 以上
5	血小板成分献血協力団体への研修会	大学サークルを主として団体献血(複数人数献血者)の継続的な協力体制を構築する	協力者数 3,000名 以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血事業所の開拓・確保	献血実施していない事業所や献血会場周辺企業等の啓蒙活動	現在、事業所が減少している状況ではあるが 目標 15～20社
2	待機型企業・団体の確保	規模縮小の為、献血協力できなくなった企業・団体。駐車スペース、他の状況で献血できない事業所。年一回実施事業所への要請。	動員協力団体 100社
3	事業所・団体等の研修会実施	献血の重要性と400mL・成分献血の啓発、強化	道内各センター 200社
4	成分献血協力団体・企業の啓発	待機型企業・団体及び少人数の企業・団体	現状 40社 目標 50社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ハガキ・電話要請の強化	前回採血から期間があいている献血者	400mL・血小板成分献血者 応諾者数(実協力者数)3,000名以上
2	複数回献血クラブの運営	複数回献血者会員へメールによる啓蒙	年度会員 3,000名
3	献血処遇品の変更	献血者のニーズに合わせた処遇・一年間で2回の品物変更	新たに1,500名以上の複数回献血者を確保
4	献血フォーラムの実施	複数回献血者会員への啓蒙	参加動員 300名

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の作成	全血献血希望者	全道目標 84.5%
2	ハガキ・電話の依頼	400mL献血可能な方	400mL可能 応諾者数(実協力者数)2,500名以上
3	実施企業・団体の年間回数、実施時期等の精査	年2～3回以上実施企業・団体	400mLの採血間隔、年間採血量を考慮した献血日程の策定
4	推進キャンペーンの実施	献血実施企業・団体・学生	各イベント(ティーンズドナー 2,500名・サマー献血800名)

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

青森県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血者確保(若年者層拡大キャンペーン)	16～29歳の献血可能者及び新規献血者	21,000人以上
2	新聞折込みチラシによる新規及び献血者の確保	全国キャンペーン時、たとえば、はたちの献血キャンペーンなどの期間は、若年者を対象	30万世帯に配布し、応諾率1.2%で3,600人
3	セミナー開催	大学生	10回以上開催、参加100名以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	20社新規登録

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾数(実協力者)1,100人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾数(実協力者)3,000人以上
3	チラシによる会員の募集	ルーム・バスに来た方	会員総数3,500人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる依頼	400mL献血可能者	(上記③に含まれる)
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	(上記③に含まれる)

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	次回の成分献血予約	成分献血者	3施設/3人/日为目标 年間 2,800人
2	クラブ以外のメールアドレス取得	全献血者	3施設/3人/日为目标 年間 2,800人
3	電話による献血依頼	全献血者	成分献血者1,300人以上
4	ルームの献血者確保	全献血者	現状より増やす。(全血 1日20名)

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

岩手県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	高校生への普及啓発	高校生(主に高校3年生)	協力者数2,900人以上
2	大学・専門学校での献血実施	短大・大学・専門学校	協力者数4,200人以上
3	親と子の血液センター見学会	小学生と保護者	参加者数320人以上
4	セミナー開催	高校生・短大生・大学生・専門学校生	2回以上開催、参加者数200人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	30社新規企業開拓
2	年2回以上の協力依頼	年1回の献血団体	10会場

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員(パソコン、携帯)	応諾者数(実協力者数)100人以上
2	ハガキによる献血要請	前回献血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)3,000人以上
3	封書による献血要請	登録者(複数回献血クラブ会員を含む)	応諾者数(実協力者数)1,500人以上
4	封書による献血要請	前回献血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)1,500人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる依頼	400mL献血可能者	20,000人に依頼
2	高校献血における400mL献血受入れ	400mL献血可能者	40校

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

宮城県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	専門学校献血会場の開拓	専門学校生	2校 延献血者数100名
2	実績の高い大学、専門学校への配車を増やす	大学生、専門学校生	3回 延献血者数150名
3	はがきによる献血のお礼状送付	16～29歳の初回献血者	再来者200人以上
4	はがきによる400mL献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	再来者150人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の開拓	献血未実施企業、及び献血実施企業の周辺企業等	30団体新規登録
2	休眠献血団体への働きかけ	休眠団体	3団体再登録

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)7,500人以上
2	封書による複数回会員登録依頼	献血依頼対象者	会員登録者数 6,000人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者(献血ルーム来場者)	献血応諾率10%以上
2	地域住民へのはがきによる献血依頼	献血実施地域の400mL献血可能者(移動採血)	献血応諾率10%以上

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	定点献血実施場所の追加	大型ショッピングセンター等	1ヶ所増、年間献血者数見込み600名
2	はがきによる会員登録の案内	献血依頼対象者	総会員登録者数 6,000人以上
3	メールによる成分献血予約の案内	複数回献血クラブ会員	成分献血予約 1,000人以上

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

秋田県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	講演会(またはセミナー)の開催	高校生、JRC	高校にての講演 6校以上
2	はがきによる献血依頼	若年層への依頼	
3	献血キャンペーンの実施	秋田県学生献血推進協議会主催の献血	2回以上の献血キャンペーン
4	高校生に対する感謝状の贈呈	高校生在学中3年間に献血5回以上へ(H19.約160名)	
5	情報誌の発行と配布	講演会のおり配布	講演などでの配布
6	若年層向けリーフレットの配布	講演会のおり配布	講演などでの配布

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	
2	緊急要請可能な待機団体の確保	規模縮小等により献血実施できなくなった企業・団体	協力団体を新規6団体以上
3	成分献血協力団体の確保	既献血団体及び小人数の企業・団体	
4	講演会の開催	献血協力企業において	年間6企業以上

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	メール会員への広報・献血依頼	メール会員の献血協力(年間 800人)
2	ハガキによる献血要請	年1回の献血者への依頼	年2回の依頼 (500人)
3	新規メール会員の募集	献血者への案内	新規会員 (120人)
4	情報誌の発行と配布	協賛事業所へ	講演会にて配布
5	リーフレット配布	協賛事業所へ	講演会にて配布
6	講演会	献血協力団体(LC等)	年間10団体

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	固定施設を対象とした電話等による献血依頼	400mL献血者への献血依頼	400mL献血者を固定で5,000人以上確保
2	地域献血実施体制の充実	各保健所での400mL限定献血	県内8保健所で8回以上開催

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	電話ハガキの依頼強化	県主催のふれあい献血の強化	電話・ハガキの依頼数 40,000件
2	成分献血キャンペーン	成分献血者限定キャンペーン	新規登録者の開拓 (1,500人)
3	平日の成分献血者確保	成分献血者限定キャンペーン	上記内容にて

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

山形県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	葉書による献血依頼	18～29歳(若年者層)の400mL献血可能者	献血応諾者数1,000人以上
2	高校献血の実施	高校生	
3	学生ボランティアの活用	大学生・専門学校生	学生ボランティアサークルを2団体増やす
4	出前講座の実施	県内の小中学生	JRC加盟校を中心に10校以上の実施

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規団体の勧誘	献血未実施事業所・団体	消滅団体を考慮し、新規団体を10以上勧誘
2	献血サポーターの勧誘	献血実施事業所・団体	登録サポーターを20団体増やす

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	14,400通配信予定(月1,200通配信目標)
2	はがきによる献血依頼	企業献血実施者へ街頭献血の案内	12,000通送付予定(月1,000通配信目標)
3	定点献血等の増加	大型スーパー2店舗(年間延べ12回)・団体1(年間延べ6回)	延べ18箇所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる依頼	400mL献血可能者	12,000通送付予定(月1,000通配信目標)
2	高校献血における400mL献血の受入	400mL献血可能な高校生	400mL献血応諾高校を全体の50%以上

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	次回の予約推進	成分献血者	1～2人/日を目標に年間500人
2	電話による成分献血依頼	成分献血者	5人/日を目標に年間1,820人
3	封書及び葉書による成分献血依頼	成分献血者	700人/月を目標に年間8,400人
4	定期的なキャンペーンの実施	全献血者	年6回程度
5	各事業所等の献血ルームへの送迎	成分献血者	5人/日を目標に年間1,200人

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

福島県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ヤング献血21キャンペーン	高校、大学、専門学校生	1回開催参加者50人以上
2	若年者献血セミナー開催	高校、大学、専門学校生	10回開催参加者300以上
3	青少年献血ふれあい事業開催	小、中、高校生	年3回以上実施100人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業の確保	献血協力事業所の見直しを効率化を図る	20社とする。
2	新規献血協力団体の確保	関係機関と連携し、新規開拓を図る	1団体以上

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる協力要請	複数回献血クラブ会員	応諾数1000人以上
2	ハガキによる要請	前回400mL献血経験者	応諾数1000人以上
3	会員募集用リーフレットの作成	400mL献血者と成分献血者	60000枚配布予定

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	400mL献血啓発資材の提供(400mL献血キャンペーンの実施)	400mL献血者	献血減少期に安定在庫を図る
2	ハガキによる400mL献血要請(主に街頭献血実施時に発送)	400mL献血者	応諾率を向上させる
3	献血実施場所の見直し	100社程度	大規模事業所を訪問後、効率良い採血に努める。

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	登録成分要請ダイレクトMの発送	成分献血未経験者で可能者	固定施設で500人確保する
2	定期的な成分献血者の確保(献血ポイント制の在申)	新規を含む成分献血者	固定施設で年間500人を定期化を依頼する
3	原料血漿確保のための成分献血確保	55歳以上の成分献血経験者	固定施設で200以上とする

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

茨城県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	セミナー等の開催	高校・短大・大学生	3回～5回実施
2	若年層キャンペーンの実施	高校・短大・大学生	2回～3回実施 参加者500名 献血者150名
3	夏休み親子教室	小学生	3日～5日実施

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規事業所の開拓	1回/30名以上の協力を得られる新規事業所	10～20社
2	休眠状態の事業所の実施	実施しなくなった事業所の見直し	10～20社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブの登録者	応諾者数 1,200人
2	ハガキによる献血依頼	献血可能者	応諾率 20%
3	実施場所(企業・団体)の年間回数増加	年1～2回実施の事業所	5～10ヶ所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	受付及び検査時の400mL推進の強化	400mL可能者で200mL希望者	月/200名
2	ハガキによる献血依頼	400mL献血可能者	上記、複数回献血者確保対策に含む
3	高校献血の見直し	休眠状態の事業所と組み合わせる	10ヶ所

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	各献血ルームでの電話及びハガキによる依頼実施	成分献血者	応諾者数 600人

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

栃木県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	高校献血の実施	16～18歳の高校生	協力者8,000人以上
2	大学・短大・専門学校等献血の実施	18～22歳の学生	協力者8,000人以上
3	青少年等献血ふれあい事業・若年者献血セミナーの開催	小中高生から30代未満の若年者	

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	10社
2	休眠団体への働きかけ	規模縮小等により献血実施できなかった企業・団体	20社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)500人
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)500人

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ハガキ・メールによる献血依頼	400mL献血可能者	上記③複数回献血者確保対策に含まれる。
2	400mL献血推進キャンペーン	400mL献血可能者	全血400比76.0%
3	高校献血における400mL推進	400mL献血可能者	高校生における400mL比率増加

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	次回の平日成分予約推進	成分献血者	平日2人増を目標に年間750人増加
2	平日の午前中の成分献血者確保	成分献血者	平日の午前中に2人増加を目標に年間750人増加

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

群馬県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	セミナーの開催	専門校・大学生	4回開催 参加500名
2	はがきによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	協力者数10,000人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	目標20社
2	成分献血協力団体の拡大	小人数の企業・団体	目標20社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	過去1年間の未献血者	応諾者数12,000人以上
2	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾者数2,000人以上
3	リラクゼーションの実施(健康相談)	メール会員	2月16日～3月13日までの平日で実施。 平均45人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	400mL献血のみ会場の実施	街頭献血会場	月6会場以上
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	上記③複数回献血者確保対策にふくまれる
3	高校献血における400mL献血受け入れ	400mL献血可能者	10校以上

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

埼玉県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	出前講座	小学生、中学生、高校生、その他学生	25回開催 参加者6,000人
2	親子ふれあい献血キャンペーン	幼児、児童及び両親	イベント参加者500人、献血者270人
3	彩の国献血フォーラム	若年層	参加者500人
4	卒業献血キャンペーン	高校3年生	献血者500人
5	県・市町村・血液センター3者の高校訪問	献血未実施校	高校生献血14,000人
6	クリスマス献血キャンペーン	若年層	献血者260人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	県・市町村・血液センター3者の新規献血協力団体の開拓	献血未実施企業及び団体	30団体
2	献血ルームへの献血協力団体の開拓	移動採血車による献血実施ができない企業及び団体	5団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	会員数13,500人
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者20,000人以上
3	県・市町村・血液センター3者の企業訪問	年一回実施の企業及び団体	10団体

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	400mL献血推進用資材の制作	全血献血希望者全員に配布	400mL献血の基準を満たしている方の95%以上を400mL献血でいただく
2	はがきによる献血依頼	400mL献血可能者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	平日の成分献血の予約推進	血小板成分献血者	平日平均予約人数 25人
2	電話による献血依頼 (水曜日と木曜日の予約率の向上)	既血小板成分献血者	平日平均予約人数 30人
3	メールによる緊急依頼	既血小板成分献血者	応諾率20%

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

千葉県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	セミナー開催	高校・短大・大学	3回開催 参加2000人
2	小学生(保護者同伴)対象のセンター施設見学及び献血勉強会	小学生(保護者)	年1回開催

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規協力企業・団体の確保	献血未実施および献血協力企業、会場周辺企業など	新規協力企業・団体の確保及び、修正により360社
2	臨時献血要請可能な企業等	通常献血に加え臨時に献血依頼、企業等	献血要請可能な企業等10社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数 延べ 800人
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数 延べ 22,000人
3	メールによる情報配信	複数回献血クラブ	年4回以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の作成(400mL献血のお願いです)	全血献血希望者	全血献血会場に設置
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
3	実施場所(企業・団体)の年間回数、実施時期などを精査	年3回以上の実施場所(企業・団体)	400mL献血の採血間隔、年間採血量を考慮した献血日程を策定する
4	高校献血における400mL献血受入	400mL受入実施校数38校	400mL受入実施校数を40校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	電話による献血依頼	血小板成分献血者(緊急時を中心に)	1ヶ月平均120人を目標に年間1,400人を確保する。

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

東京都赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ラクロス献血協力者に対する複数回依頼	短大・大学生	600人対象
2	施設見学の実施	大学・専門学校生	10校実施を目標
3	大学・短大献血の増回・増班	大学・短期大学生	大学献血の稼働日数を延べ30日増加
4	放送番組とのタイアップ	16歳以上の学生	10番組
5	グループ献血、ペア献血キャンペーン	16歳以上の学生	約20,000人
6	はがきによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	協力者数20,000人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血団体の確保(ライオンズクラブとの連携等)	献血未実施団体	50団体
2	新規協力企業の確保	献血会場周辺の新規協力企業	50団体
3	掘起し・増回企業・団体の確保(ライオンズクラブとの連携等)	献血中断・年1回実施の企業・団体	50団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	冬季献血サポーターキャンペーン	上半期に400ml献血した献血者の再来を勧奨する。	400ml献血再来者11,000名
2	メールによる献血要請	複数回献血クラブ(携帯メールクラブ)会員	応諾者数(実協力者数)20,000人以上
3	はがきによる献血依頼(全血・成分)	前回献血ルームでの献血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)38,000人以上
4	はがきによる献血依頼(渉外支援)	前回同移動採血会場に来所した献血者への依頼	応諾者数(実協力者数)40,000人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血説明会の実施	協力企業・地域・学域等	随時
2	400ml献血推進パンフレットの活用	協力企業・地域・学域等	随時

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	成分献血予約推進	成分献血者	成分献血の35%以上を予約で確保する。約65,000人

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

神奈川県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	横浜開港150周年記念イベントに合わせ横浜F・マリノス、横浜ベイスターズとコラボレーションした献血推進	高校生・大学生	横浜開港150周年記念イベント期間中
2	サッカーチーム横浜F・マリノス、野球チーム横浜ベイスターズ・チアリーダーの参加等、球団と連携し献血PR活動の実施(横浜ベイスターズ公式試合球、サイン色紙、横浜F・マリノス人気グッズ等の提供を受け記念品として活用、横浜ベイスターズファン感謝デーでは球場内で献血実施)	高校生・大学生	各チーム試合開催日、ファン感謝デー等イベント開催時に配車。各球団別にチームエンブレムで装飾した天幕を製作し献血会場に設置することにより、若年献血者の確保をはかる。
3	小中学生親子教室	小学生親子、中学生親子	夏休み期間
4	ボラフェスタ	大学生(ボランティアクラブ・サークル)・社会貢献団体・プロ野球、サッカーチーム	1回開催、参加大学校8校
5	若年者セミナー開催	高校生・大学生	3回研修開催
6	大学献血	大学生	
7	メディアを活用した患者様からのメッセージ放送	高校生・大学生・その他	
8	サッカー教室(横浜F・マリノス協力で児童が練習中に保護者対象の献血実施)	幼児・小学生親子	
9	献血の絵ポスター展	小学生・中学生	

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業	献血未実施および献血会場周辺企業	50社新規登録
2	新規企業の複数回献血へのアプローチ	新規献血協力企業・団体の参加を求める	企業・団体総数を870社に

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ハガキによる献血依頼	新規全血(400mL)登録者	年間応諾予定 3,000人以上
2	街頭献血によるハガキ依頼	全血献血(400mL)登録者	42,000人の依頼に対し年間応諾予定 5,000人以上
3	企業献血によるハガキ依頼	全血献血(400mL)登録者	45,000人の依頼に対し年間応諾予定 16,000人以上
4	電話による依頼	全血献血(400mL)登録者	4,000人の依頼に対し年間応諾予定 800人以上
5	献血メールクラブの活用	全血献血(400mL)登録者のメールクラブ員	10,000人の依頼に対し年間応諾予定 1,000人以上
6	原料血漿確保キャンペーン(3回連続献血、ホップ・ステップ・ジャンプ)	成分献血可能者(16,700人)	年間に3回実施、各回30,000人の依頼、年間応諾予定 9,000人以上
7	全血献血者の成分献血者に移行を目的とした献血再来カードの発行	全血献血を主体としている、神奈川県運転免許試験場内設置の献血ルームでの400mL献血者を成分献血主	年間献血目標の23,000人に依頼

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	400mL献血推進キャンペーンの実施	400mL献血可能者	4回実施
2	実施場所(企業・団体)年間回数、実施時期等の精査	年間3回以上の実施場所(企業・団体)	400mL献血の採血間隔、年間採血量を考慮した献血日程の策定
3	ハガキによる献血依頼	400mL献血可能な献血登録者	上記③複数回献血者確保対策に含まれる
4	受付時400mL献血推進用資材の製作	全血献血希望者	全献血会場に設置

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	成分献血キャンペーン ハガキ依頼(血小板及び原料血漿の確保)	成分献血登録者	年間 80,000人の依頼 20,000人の確保
2	年末年始対策ハガキ依頼(12/25～1/4)	成分献血登録者	5,000人の依頼 1,250人の確保
3	平日の成分献血者確保対策(ウィークデーカード)	成分献血者	平日の平均受入人数を5人程度の増加
4	血小板型別不足による平日献血依頼	成分献血登録者	随時対応
5	横浜駅東西献血ルーム推進キャンペーン	成分献血者	

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

新潟県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	高校での卒業献血の実施	高校生	5校
2	講演会開催	専門学校生、大学生、高校生	10校
3	献血セミナー、献血ルーム見学会の開催	専門学校生、大学生、小中高校生	10校
4	学生ボランティアの組織化	専門学校生、大学生、高校生	5校
5	若年層向けリーフレットの作成	若年層	60,000枚

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力事業所、団体の開拓	県内の事業所、団体	30社
2	年2回以上実施する協力事業所の確保	〃	10社
3	献血協力に関する企業アンケートの実施	〃	アンケート結果を踏まえ、事業所訪問
4	新聞への献血実施お礼広告の掲載	協力事業所・団体	6月に掲載

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	会員 3,000人以上
2	はがきによる献血要請	前回の献血から一定期間未献血者	応諾者数5,000人以上
3	献血バス会場献血者の献血ルームへの誘導	年1回実施の献血バス会場の献血者	誘導者数300人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる献血要請	400mL献血可能者	応諾者数5,000人以上
2	実施場所(事業所・団体)の年間回数、実施時期等の精査	年2回以上の実施場所	400mL献血の採血間隔、年間採血量を考慮した献血日程の策定
3	400mL推進パンフレットの作成	一般献血者	5,000枚作成
4	400mL率の高い協力事業所での年2回実施依頼	協力事業所	10ヶ所

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新聞に献血情報掲載	新潟日報(地方紙)の社会面に献血情報掲載	毎週土曜日52回掲載
2	ラジオとタイアップした献血推進キャンペーン	県内民放ラジオ局	献血の普及啓発、新規献血者の獲得
3	献血PRイベントの実施	県内民放ラジオ局の公開録音実施	献血の普及啓発、新規献血者の獲得
4	献血ルームにおける血液不足時期のキャンペーン実施	県内3か所の献血ルーム	血液不足時期の献血者確保
5	協力団体への献血要請(冬季)	協力団体に献血協力カードを配布	応諾者 300名以上

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

富山県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ハガキによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	年間献血協力者数15,000人
2	献血セミナーの開催	短大生、専門学校生、大学生	年間5回実施(200名程参加)
3	若年層への献血啓発	小学生、中学生等	年間500名程度参加
4	学生献血ボランティアと連携したイベントの実施 (サマー献血、クリスマス献血)	18～22歳の若者	500名の献血協力者を確保
5	大学献血での「いっしょに献血」キャンペーンの実施	大学生	200名の献血協力者を確保

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力団体、休眠団体の拡大	献血未実施及び献血会場周辺企業	新規団体を10社300名の献血者を確保

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	複数回献血クラブ会員の募集	400mL献血、血小板献血可能者	会員数を1,200人
2	年間2回献血協力事業所の拡大	年1回の献血協力事業所	10団体増加

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	200mL献血の受付制限	街頭献血会場	全ての街頭献血会場にて実施
2	高等学校内の献血は3年生対象に実施	各高等学校の3年生	10校にて実施
3	献血協力事業所における200mL献血抑制	献血協力事業所	全ての献血会場にて実施

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	血小板献血予約者の確保	血小板献血可能者	3人/日为目标に年間1,000人を確保

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

石川県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血ポスターの募集	中学生	20校200点
2	献血セミナー開催	大学生	50人
3	学園祭での普及啓発	大学・短大・専門学校	5校
4	センター見学会の実施	小学生(保護者)	4回開催、参加200人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規協賛企業・団体の確保	未実施企業・団体	10～15社新規に確保
2	不足時に依頼可能な企業・団体の確保	緊急に要請可能な企業・団体	10社・団体を確保

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールクラブ会員の募集	未登録の献血者	1,000人募集
2	メールによる献血要請	メールクラブの会員	応諾者数100人以上
3	ハガキによる献血依頼	年1回の献血者	応諾者数500人以上
4	複数回実施の依頼	年1回の企業・団体	10社・団体

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ハガキによる献血依頼	400mL献血可能者	500人確保

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

福井県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	短大・大学:学内献血の増加 いっしょに献血キャンペーン	学生、教員	短大、専門学校年間1回以上 大学年間2回～4回
2	学生献血推進連盟との連携強化	学生	キャンペーン実施(年間5回)
3	血液センター見学	小学生以上、関係者	年間10回程度
4	若年層献血推進用パンフ、ポスターの作成	小中学生、関係者	ポスター:県内全小中学校へ配布

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血団体の開拓	献血未実施、休眠中および会場周辺企業団体	5社(団体)
2	緊急要請可能企業、団体の開拓	血液センター周辺企業団体	5社(団体)
3	ライオンズC、ロータリーCとの連携強化	県内全LC(28) RC:新規開拓	LC:28団体 RC:3団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	キャンペーン実施(新規課員募包含む)	クラブ会員、献血者	イベント企画(年間2回)、新規課員500人
2	メール・ハガキ依頼の活用	クラブ会員、献血者	メール:年間20回・1,500人へ依頼 ハガキ:年間応諾率30%(20年度実績25.8%)
3	初回献血者:サンクスキャンペーン (お礼状や血液の現状等のお知らせ)	年間初回献血者(約3,000人)	初回献血者の50%を複数回協力者へ
4	400mL献血リピートキャンペーン	400mL献血者	年2回以上:400mL献血者の40%

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	400mL献血受付のみ計画の増加	ライオンズC主催の地域献血計画	年間40回程度
2	400mL献血推進用啓発資材の活用	献血者、推進協力・団体	全移動採血計画
3	400mL献血リピートキャンペーン	400mL献血者	年2回以上:400mL献血者の40%

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	母体限定キャンペーン実施	献血者	1日平均35人以上
2	冬期限定テレビCMの活用(1月～2月)	県民	冬期献血者確保対策(型別、場所告知など)
3	市町村職員送迎:血小板成分献血	市町村職員	年間30回(1回当り5～6人)

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

山梨県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	高校献血の全校実施	400mL献血可能者	協力者数1,000人以上
2	短大・大学献血の実施	400mL献血可能者	協力者数1,000人以上
3	セミナー開催	高校・短大・大学生	3回開催 参加200人
4	若年献血者用パンフレットの作成	県内全中学校の卒業式で10,000人に配付	協力者数1,000人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業の確保	献血会場周辺企業	10社増加
2	年1回の献血団体を年2回実施	年1回実施企業・団体	5団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	実協力者数200人以上
2	はがきによる献血依頼	一定期間未献血者及び前回献血者	実協力者数2,500人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	高校献血における学年規制	高校3年生を中心に実施	400mL献血者1,000人以上
2	大学献血における400mL献血の推進	200mL献血者(お断りの説明)	400mL献血者1,200人以上
3	献血ルームにおける400mL献血の推進	200mL献血者(お断りの説明)	400mL献血者3,000人以上

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血ルーム案内チラシの作成	甲府市内の移動での献血者及び大学・短大で10,000人に配付	献血ルームの成分献血者300名増
2	はがきによる依頼	一定期間未献血者	献血ルームの成分献血者500名増
3	ライオンズクラブによる献血協力	県内34ライオンズクラブから各クラブ3名以上の成分献血者をルームへ動員していただく。	献血ルームの成分献血者100名増
4	献血ルームの献血者確保 (ポイントキャンペーンの実施)	全献血者	平日の平均受入数30人を33人まで増やす。

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

長野県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血キャンペーンの実施	若年層を狙った街頭献血の実施	学生ボランティアによる街頭啓発活動10・20代構成比を30%
2	新成人への献血パンフレット配布	成人式を迎える方	市町村成人式で配布する。
3	学生の送迎	高校生、短大生	200名の送迎

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規協力企業の確保	新規企業に訪問し献血の依頼を行う。	新規10社
2	休止企業の協力依頼	3年以上休止している企業を訪問し実施する。	10社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	献血協力者1,000人以上
2	ハガキによる献血依頼	過去の献血者	献血協力者2,000人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	400mL献血推進パンフレット配布による啓発	移動採血車による献血者	400mL可能献血者の400mL献血率を95%にする
2	高校献血の400mL献血推進	校内献血高校生	400mL献血率35%

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	固定施設献血者の増加	企業、短大、専門学校	送迎により500名の献血者確保
2	午前中の血小板献血者の確保	官公庁職員	200名の献血者確保

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

岐阜県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	中学生への献血思想の普及啓発	県下全中学校	200校
2	高等学校への献血思想の普及啓発	県下全高等学校	79校
3	大学・短大・専門学校への普及啓発献血実施	大学・短大・専門学校	各校献血者数 50名以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血協力者が30名を望める企業・団体	数社
2	献血実施会場への送迎協力	献血実施会場周辺企業・団体	1稼動平均献血者増

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	年間献血回数が1回の400mL献血者	応諾者数(実協力者数)1,500人以上
2	事業所(企業・団体)	年間1回実施で大口協力事業所	数ヶ所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	渉外時での400mL献血の推進	事業所・団体の献血担当者	前回実績の1割り増し
2	献血受付時での400mL献血の推進	400mL献血基準を満たしている献血者	基準を満たした方全員の快諾

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	職専免	県・市町村職員	月2回の依頼
2	電話による依頼	該当者	必要人数
3	はがきによる依頼	誕生日月等 献血間隔に応じて	月 3, 500人
4	学生の献血者送迎	大学生・専門学校生	10校

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

静岡県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	小・中・高生対象の献血勉強会	小学生・中学生・高校生	3回以上の開催で参加者100名以上
2	JRCメンバーへの献血勉強会	小学生・中学生・高校生	4回以上の開催で参加者350名以上
3	学生ボランティア活動の充実	高校生・大学生・専門学校生	定例会の開催および献血主催で延べ参加者300名以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血団体・献血推進団体の確保	献血会場周辺企業・新規開設事業所・献血未実施ライオンズクラブ	新規献血団体・献血推進団体を72団体確保する。

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ員	応諾者数(実協力者数)1,000人以上
2	はがきによる献血依頼	献血依頼可能者(前回400ml実施者のみ)	応諾者数(実協力者数)2,000人以上
3	献血団体、献血推進団体の年間実施回数の増加	年1回実施の献血団体、献血推進団体	36団体以上の献血実施回数の増加

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる依頼	前回400ml献血実施者	前回400ml献血実施者
2	400ml限定採血実施(在庫状況による)	移動採血車	移動採血車
3	学年限定の高校献血実施(学校の了解前提)	校内献血時3年生のみ実施	校内献血時3年生のみ実施

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血中、献血後の登録依頼強化	成分献血実施者のうちの未登録者	新たな成分献血登録者を500名以上増加させる。

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

愛知県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	中部学生リーダー研修会の実施	短大・大学生	2回以上の研修会を実施 参加人数100人以上
2	学生献血連盟によるキャンペーン実施	18歳～22歳の若年者	年2回以上の実施 参加600名以上で若年層10代20代の献血構成比35%以上にする

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血団体・企業の確保	献血未実施企業・団体	休眠団体、新規団体の献血実施50社
2	優良企業・団体の年複数回の献血実施	1稼働あたり85単位以上の企業・団体	15企業・団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	協力者数1,000人
2	はがきによる献血要請	成分献血・400mL献血可能者	協力者数15,000人
3	メール会員登録推進カード配布	全献血者	メール会員新規登録6,000人

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	受付時の400mL推進用資材作成	400mL献血対象者	1稼働当りの400mL比率87%以上とする
2	はがきによる400mL献血依頼	前回400mL献血者で間隔があいている方	応諾者数10000人以上
3	献血企業・団体への400mL協力依頼	400mL比率が89%以下の協力団体	前年400mL比の低い団体を89%以上にする

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

三重県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	セミナー開催	大学生・専門学生・短大生	2回 100名
2	大学、専門学校献血増回	大学生・専門学生・短大生	10校 配車20回×45人 900名
3	中部統一学生サマー献血キャンペーン	18～29歳の若者	10、20代献血者構成率30%以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力・団体の確保	献血未実施の事業所	20社新規登録
2	休眠状態の事業所の開拓	5年以上献血から参加していない企業	20団体以上

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数500名以上
2	企業への年間回数の増加	事業所内職員	400mL献血間隔、年間採血量を考慮した献血日程

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	街頭献血(ショッピングセンター)推進	一般市民	1000人(年100回×10人)初回献血

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	成分献血登録者の募集	条件に合致する献血者	100人/月
2	電話による献血依頼(主に夜間)	成分登録者	300人/月
3	次回の予約依頼	成分献血にご協力いただいた献血者	10人/日

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

滋賀県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成21年度目標(数値)
1	ハガキによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	協力者数1,000人以上
2	ふれあい体験学習	小・中学生	3回開催 参加500人
3	セミナー開催	短大・大学生	9回開催 参加700人
4	若年者献血キャンペーン	18～22歳の若者	参加500人以上 期間中の10、20代献血者構成比50%以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成21年度目標(数値)
1	新規・休眠中献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	新規等登録10社
2	緊急要請可能な待機型団体の確保	母体・ルーム周辺の小規模企業・事業所	動員協力団体5社
3	献血協力団体等の確保	献血協力団体及び献血推進団体	協力団体5社増加

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)500人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)3,000人以上
3	実施場所(企業・団体)の年間回数の増加	年1回実施場所(企業・団体)	5カ所
4	郵送によるメール会員募集	若年献血者	新規登録者200人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成21年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の製作	献血団体・献血推進団体および献血者	全献血会場に設置
2	ハガキ及び封書による献血依頼	400mL献血可能者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
3	献血団体の年間回数・実施時期等の精査	年2回以上実施の献血団体	400mL献血の採血感覚、年間採血量を考慮した献血日程の策定
4	街頭献血での400mL献血の更なる推進	街頭会場での400mL献血可能者	街頭会場平均95%以上

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成21年度目標(数値)
1	近隣大学生への献血勧誘	母体の近隣大学生(立命・龍谷)	3人/日を目標に年間600人を確保する。
2	DM及び電話による献血依頼	母体・ルームの血小板成分献血者を含む全献血者	3人/日を目標に年間1,000人を確保する。
3	次回の予約推進	母体・ルームの血小板成分献血者	2人/日を目標に年間700人を確保する。

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

京都府赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血ルームでの献血セミナー開催	小学生高学年とその保護者	8月 4回開催 参加100人以上 献血協力 40人
2	若年層対象の献血セミナー開催	JRC加盟中～高校生・看護学生	JRC加盟校 3回開催 参加150人 看護学校 7回開催 参加300人
3	18歳からの献血体験キャンペーン	府内18歳以上の高校3年生、専門学校生	期間中の参加者数 100人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血協力企業の確保	献血会場周辺企業に対する献血協力の推進	27社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血依頼メールの送付	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数):不足時要請300人
2	情報提供メールの送付	複数回献血クラブ会員	1回/月 程度の情報提供
3	健康相談事業(健康教室)の実施	複数回献血クラブ会員	100人程度の参加
4	講演会の実施	複数回献血クラブ会員	1回実施
5	登録会キャンペーンを設けて新規登録者を募集する	一般献血者	新規登録者10人/回
6	「ワンモア献血カード」キャンペーン	献血ルームでの400mL、成分献血者	400mL献血者3,200人確保(実人数)、年間3回以上の成分献血者3,000人確保(実人数)

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼(献血ルーム)	前回献血から6カ月間未献血の400mL献血者	応諾者(実献血者数) 1,800人
2	1稼動あたりの400mL献血数増加(福知山移動)	全稼動	1稼動35人以下の会場には配車しない
3	1稼動あたりの200mL献血数減少(福知山移動)	全稼動	200mL献血の1日上限採血数を2人とする

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼(献血ルーム)	前回献血から9か月間未献血の400mL献血者約2000人(11月と3月の2回に分けて送付)	応諾率20%

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

大阪府赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがき・Eメールによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	協力者数2,000人以上
2	セミナー開催	高校生・短大・大学生	2回開催 参加60人
3	献血おもしろゼミナール開催	小学生	夏休み8回開催 参加1,800人
4	若年者献血キャンペーン	高校の卒業生・短大・大学生	参加5,000人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場(ルームも含む)周辺企業	150団体
2	緊急要請可能な待機型団体の確保	官公庁、献血推進団体	10団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾数(実協力者数)900人以上
2	はがきによる献血依頼	輸血用血液の在庫が不足時期に前回採血から一定期間未献血者	応諾数(実協力者数)8,000人以上
3	実施場所(企業・団体)の年間回数の増加	年1回実施場所(企業・団体)	30箇所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	受付時献血推進用資材の作成	全血献血希望者	全献血会場に設置
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	上記①、③に含まれる
3	キャンペーンの実施	400mL献血可能者	応諾者数10,000人以上
4	Eメールによる献血依頼	400mL献血可能者	上記①、③に含まれる

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	固定施設における献血者サービスの充実	全献血者	献血者数を現在より10%増加させる。